

# グローバル通信

Ryukoku University

GLOCAL TSUSHIN

2023.08 vol.62

一人ひとりの考量と行動で、ひらかたを最高のまちに	1
企業支援には専門性に加え広い視点が必要	1
高畑委員長挨拶	2
地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ	2
2023年度特別演習 新入生紹介	3
2022年度1年間の大学院生活を振り返って	4
グローバル通信編集スタッフ紹介	4
事務局インフォメーション	4

今年もまた暑い季節がやって来ました。2023年度が始まってからまもなく5ヶ月が過ぎ、1年目の学生もそろそろ大学院生活に馴染んできたのではないのでしょうか。2年目の学生も中間報告会、その後の夏休みと、いよいよ修士論文の提出に向けて本格的に取り組みされる頃かも知れません。

各々が様々な分野について懸命に取り組み、互いに意見を交わすという環境に身を置くことは、切磋琢磨のエネルギーを与えてくれるのではないのでしょうか。これから本格的な夏に向けて、互いに助け合いながら研究に励むことができればと思います。



## 一人ひとりの考量と行動で、ひらかたを最高のまちに

伏見 隆

(枚方市長)

枚方市は大阪と京都の中間に位置する中核市です。鉄道や道路の交通網が充実しており、大都市圏へのアクセスの良さから住宅都市として発展し、現在では約40万人のたが生活しています。また、市内には特色ある5つの大学や先人の歴史が深く刻まれた豊富な歴史文化遺産がある一方、淀川河川公園や市内東部に広がる緑豊かな里山など、自然環境にも恵まれた、多様な魅力を併せ持つまちです。

これらの魅力を資源とした賑わいの創出に取り組むとともに、2025年の大阪・関西万博にあわせて、まちへの愛着の向上や地域経済の活性化を図ることを目的に、「ひらかた万博」と称した市独自の取り組みを実施しています。また、人口減少や経済の停滞という厳しい時代だからこそ、まちを活性化させるため、多くの人が集い、交流するエリアの形成に向けて、まちの玄関口となる枚方市駅周辺の再整備を進めています。

本市では、社会の変化に迅速かつ的確に対応できる人材を育成するため、令和3年3月に人材育成基本方針を改定しました。その中で、「一人ひとりの考量と行動で、ひらかたを最高のまちに～すべての仕事はだれかのために Always Challenging～」を理念として掲げています。職員一人ひとりが「市民や市に関わる全ての人のため」という市職員の原点を再認識し、今の状態よりもさらに良い市民サービスを提供するために、常に考え行動するという職員としてあるべき姿を定めたものです。最高のまちをめざすには、すべての職員がこの理念を理解し、組織全体の一体感を高めるとともに、一人ひとりが個性・強みを生かして職務にあたる必要があります。

今後も、貴学とより一層の連携協力関係を深め、地域や自治体をリードする人材の育成に取り組むとともに、あらゆる可能性にチャレンジできる「人が主役のまち」「暮らしたくなるまち」であり続けるために、一人ひとりの思いに向き合って寄り添い、だれもが幸せを求めることのできる社会基盤を整え、変革をおそれない「強さ」とともに、人とつながる「優しさ」を兼ね備えた市役所を創り上げていきたいと考えています。

## 企業支援には専門性に加え広い視点が必要

坂田 岳史

(一般社団法人京都府中小企業診断協会 会長)



新型コロナが5類型に移行し、京都もコロナ前の活気を取り戻しつつあります。一方で、コロナの影響が長引き、かつ原価高騰で経営が厳しい中小企業も多くあります。私達、中小企業診断協会のミッションは、これらの中小企業の経営改革・改善を支援し、元気な企業になって頂く事です。現在、当協会には235名の会員がおり、それぞれが事業承継、資金調達、人材育成、販路開拓、現場改善、IT経営・DX等の専門分野をもち、企業支援を行っています。この企業支援を行う場合、まずは広い視野で全体を見渡し、その中で何を改革・改善すべきかを見出すことが重要です。例えば、サッカーの場合、ボールを持つ選手に目が行きがちですが、まずは相手チームのフォーメーションや各選手の動き全体を見て、そしてゴールする為の戦術を考え、実行します。それと同じように企業支援でも、個別の課題だけに注目するのではなく、経営者の考え方、従業員のモチベーション、財務内容、業務内容など企業全体を把握して、その課題が発生した背景を掴む事が必要です。例えば、新商品のプロモーションにSNSを活用したい場合、いくら診断士が専門性を発揮して活用方法を助言・指導しても、担当者の仕事が忙しくて取り組む時間がとれなければ、意味がありません。その場合、SNS活用支援の前に、なぜそのような状況になっているかを分析して、業務改善から支援する必要があります。もちろん、このようなケースばかりではありませんが、個別の課題解決を支援する場合は、このように課題解決に専念できる環境づくりを考慮する事も重要となります。いずれにしても、企業支援では木を見て森を見ずではなく、全体を鳥瞰してから取り組む事が成果を出すポイントと考えます。

現在、龍谷大学様が行われている「地域公共人材総合研究プログラム」は、研究科横断型であり、広い視点を持ち、かつ地域の課題を解決できる人材育成をされています。当協会からも会員が参加しており、近い将来、本プログラムを卒業した会員が、企業支援のリーダーシップを発揮してくれる事を大いに期待しています。

## 委員長挨拶

前任の白須正先生を引き継ぎ、地域公共人材総合研究プログラム運営委員長を務めています高畑重勝と申します。

地域公共人材総合研究プログラムは、2003年度から開設している大学院修士課程のプログラムです。20年の実績を重ね、これまで数多くの高度な専門的職業人を輩出してきました。

このプログラムの特徴は、地域社会を支えるさまざまな立場の社会人院生と、学部から進学した大学院生が相互に刺激し合い、高め合う、理論と実践を架橋する学びの場となっていることです。人々の暮らしと経済、生きることそのものにつながる公共の課題を対象に、さまざまな立場から、その解決に向けて、考え、学び、議論する過程を通じて、高い政策立案能力、課題解決能力を培うことができます。

教員の私自身も、特別演習の時間は、院生の皆さんが披露される論文の内容やその議論から大いに刺激を受ける楽しい機会となっています。

また、法学研究科と政策学研究科の共同運営による多彩な履修科目の開設は、学びの広がりを生み、能力の幅を広げる機会となっています。

社会は、様々な課題を抱えながら、日々大きく変化しています。なかでも、AIの進展は未来を大きく変えることになると予想されるとともに、その影響力は新たな社会課題を生むことにもつながるでしょう。

こうした未来の社会にあっても、人が生きる基盤である地域に軸足を置き、高い倫理観の下に専門的な知識と高度な課題解決能力を持つ地域公共人材は、今後ますます活躍が期待されるものと確信しています。

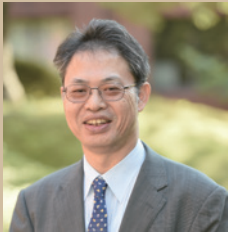


地域公共人材総合研究プログラム  
運営委員長

高畑 重勝

(龍谷大学政策学部教授)

## 地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ



松尾 秀哉  
(龍谷大学法学部教授)



今里 佳奈子  
(龍谷大学政策学部教授)



大田 直史  
(龍谷大学政策学部教授)

法学部所属の松尾です。専門はヨーロッパ政治史です。早いもので、龍谷大学着任以来、今年度でこの土曜クラスを担当するようになって6年目になります。毎年このクラスは社会人の方と大学院生とが熱心に議論する場になっており、社会人経験を経て大学院に進学した私も楽しみにしています。

このクラスの最大の特徴は、立場や年齢の違いを超えた者たちがそれぞれの意見を言い、また聞くことで、自分の考えを「独りよがり」にせず一般化する可能性を秘めていること、さらに全く専門が異なる人たちにも自分の話を理解してもらうために「共通言語」を取得できることにあると感じています。

自分の殻に閉じこもって考えていると、慣れないうちはどうしても自分のなかだけで話が完結してしまいがちです。しかし研究は、他の人に理解してもらって初めて評価され、価値あるものになります。お互いに質問しあい、意見を述べ合うことで、少しずつ相互に理解しあうことで、研究のレベルも高まっていくと思います。

今年から高畑先生も加わって新しい体制となりました。このクラスを大いに活かして、それぞれの研究とお仕事ステップアップしていくことを願ってやみません。

地域公共人材総合研究プログラムの特色は、年齢、国籍、専門、学歴、職歴などが様々な方々がともに社会課題と向き合い、研究を深める場となっていることです。中でも、この特別演習は、専門・年齢・経歴の異なる2名の教員の指導の下に、これらの方々が一堂に会し、各自の研究テーマについて報告を行い議論を交わす場となっており、互いに知見を深めるといっても、新しい視角や着想を得るといっても、そして、ともに研究をすすめていくという点でも、最も本プログラムらしい講義の一つとなっているといえるでしょう。

当初はリサーチアクションも研究方法もぼんやりとしている報告ですが、議論を交わす中で、回を重ねる毎に、次第に研究の輪郭が明らかになっていきます。私は2023年度より初めてこの講義を担当していますが、それぞれの分野で豊富なご経験をもつ社会人院生の視点、最新の専門知識を得てきた若手院生の視点等が混じり合う、いわば対流の効果を、毎回のよう感じているところです。また、研究上の交流にとどまらず、さまざまな繋がりができていくのもこのプログラム、特別演習の醍醐味です。この講義が終わっても、ここで得た知見や、様々な繋がりを、是非、今後の活動に活かしていただきたいと思います。

地域公共人材総合研究特別演習を、今年度はじめて担当しています。担当教員としては、自分の専門分野とは無関係にあらゆる専門分野の大学院生のみなさんの研究テーマに関する問題意識に溢れた報告内容をうかがいながら同時にそれを学術論文にまとめあげていられることに資するコメント・助言を考えるという緊張感とプレッシャーに満ちた時間を経験しています。

しかし、担当教員のこのような緊張感にかかわらず、各院生の報告内容の学術研究への昇華は、主には多種多様な院生間の活発な議論を通じて達成されているようにみえています。演習受講者は、いわゆる社会人院生と学部卒院生、主たる研究分野、研究方法も違う多彩な大学院生のみなさんです。多様な院生同士が相互に指摘・批判的コメントを行い合う議論は、聞いていて大変刺激的であり、それを通じて研究課題が鮮明化させられ、発表内容に不足し、欠けていた新たな観点や知見が補われ、総合され、分野横断的に研究の質の獲得が図られているように思われます。

この演習を通じて受講者コミュニティの一層自律的で活発な議論を促すことで院生のみなさんの研究の成果が論文として実を結ぶことを期待しています。

## 土曜日クラス

本コースに新たな新入生が入学されました。特別演習ごとに新入生の自己紹介と集合写真を掲載しております。

## ①石黒壮真

③初めまして！石黒壮真です。私の関心のある分野は、都市計画・都市デザインです。その中でも、再開発に興味があり、現在勉強中です。  
皆さんとの出会いを含め、「一期一会」を大切に頑張りたいと思います。よろしくお願いします！

## ①今西賢

③関心のあるテーマ 公共交通  
勉強不足な事が多くありますが、よろしくお願いします。

## ①岡田大斉

②大津市役所  
③震災時の被災建築物応急危険度判定と罹災証明発行のための住家被害認定調査の関係について研究しています。社会人の日常と二十数年ぶりの学生生活の両立を目指して、壁にゴンゴンぶつかりながらも、とても楽しい毎日を送っています。この1年を一杯楽しみたいと思います。

## ①谷澤莉音

③私は、地域防災に関心があり、現在は、観光地における帰宅困難者の課題に関する研究をしています。大学院では社会人の方々とともに学ぶことができ、みなさんの各々の専門分野、研究テーマが全く異なるので、日々勉強になります。みなさんとたくさん議論していきたいです。よろしくお願いします！

①名前 ②所属 ③自己紹介・研究テーマ・関心のある分野



## ①小谷夏美

②京都府  
③特にここ数年脅威が増してきたように感じる地震、大雨などの身近な災害に対する知識に、私たち日本人と外国人の間で大きく差があるのではないかと感じ、これから先京都で災害が起きたときのために、何かこのギャップを埋めておけるような策を立てられれば良いと考えています。

## ①白 建哉

③こんにちは、私は白 建哉と申します。中国の吉林省から参りました。大学の専攻はジャーナリズムなんですけど、その時、課題を完成するために、実際に「滇池」というところに取材しました。その時は、「滇池」の水汚染の大変さはわかりましたが、それに対する治理政策の問題に関心を移します。そのため、龍大の政策研究科に入りまして、この問題について研究したいです。どうぞよろしくお願いします。

## ①山内裕貴

③昨年度は学部時代からの念願だったドイツへ留学していました。ということもあり、欧州について、とりわけ文化政策に関心があります。毎年、欧州で選定される「欧州文化首都」では年間を通して文化イベントが行われ、都市再生や活性化が期待されています。このプログラムに着目して研究を進めています。

## ①吉田瑞希

②都市政策を勉強しています。特に住民が自分の都市をどのように捉えているかに興味があり、そんな感じの研究をしています。早く納得のいくテーマを決めたいと思います。

## ①堀泰明

②一般社団法人大和ブランド推進協議会  
③こんにちは。堀です。  
私は、地域公共人材総合研究プログラムを利用させていただき、社会人として働きながら大学に通っております。本業では、個人事業主としてホームページの制作やデザインの仕事を主にしています。  
大学院では、自身も含まれる「フリーランスの保護」について研究しています。よろしくお願いします。

## ①中村真也

②京都府庁  
③私は、中小企業における「知的資産」について関心があります。具体的には、中小企業において知的資産を把握することが従業員にとってどのような効果があるのかを明らかにしたいと思っています。また、研究だけではなく、今回の学びの機会を活かし、自分自身の成長と今後の業務につなげていけるよう頑張っていきます。

## ①安井慶子

③修士1年生の安井慶子です。私は学部時代の学びを経て非営利組織の持続的な運営や今あるべき姿等に関心があり、大学院に進学しました。政策学研究科の環境をいかし2年間研究していきたいと思っています！

## ①細野光男

②京和堂（土産店・個人事業主）、京都府中小企業診断協会会員  
③新京極商店街で土産店を営業しています。昨年11月より新京極ふれあいマルシェとして近郊農生産者さんに広場で月1回野菜中心に販売してもらっています。コロナも落ち着き人通りも戻っていますが、広域商店街のなかでマルシェの意味合いを検証したいと思います。

## ①森川直浩

③学部時代は只友ゼミに所属していました。大学院でも只友先生にお世話になります。熟議民主主義および市民討議会について研究しています。他の院生は都市計画に関連する分野が多いため、研究内容を他の人に説明することが難しく悲鳴を上げています。もちろん他の院生の研究内容を理解することも困難です。



## 水曜日クラス

## ①畑田麻帆

③中小企業の意思決定や事業承継について関心があり、研究を進めています。現時点では、後継者問題や限られた経営資源の中でのイノベーションなど多くの可能性と課題を有する中小企業の、承継時における経営革新の阻害要因や促進要因を新たな視点から考察したいと考えています。

## ①龍村薫

③ばけ防止(笑)の一環で、70歳になって政策学研究科に入学しました。遡れば、20代に機械工学を勉強し、サラリーマン生活を終了した後の60代に真宗学科に入学して文学研究科に進学しました。その後、3年間の特別専攻生を経て現在に至っています。歳を取るに従って探究心が旺盛になり、日々の講義を楽しんでいます。

## ①松本安弘

③阿部大輔研究室所属修士課程1年。グローバル人材開発センターのPBL活動で学生チームリーダーとして活動。京都のコミュニティキッチンであるDAIDOKOROのキッチンマネージャーとし、イベント運営や企画を行っている。研究対象としては、「食」文化によって形成される「都市計画・都市デザイン」について進展させていく予定。



2023年3月、19名（政策学研究科12名、法学研究科7名）が修士課程を修了されました。今後のさらなるご活躍を期待します。

## 2022年度の大学院生活を振り返って

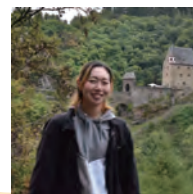
### 政策学研究科 修士2回生 吉田 匠 さん



2022年度は新たな出会い、充実した学びの年でした。社会人院生が半分以上を占める授業では、課題解決の最前線に立っておられる方の意見、リアルな悩みを聞くことができました。政策学研究科に所属している院生はそれぞれ専門分野が違っておりますが、それが授業、それ以外会話の場面においてもとても良い方向に働いていると感じています。

また私たちの学年は例年より学部から進学した院生が多いこともあり、共に助け合い、時には良い刺激を与え合えるような雰囲気ができていました。そのような横の関係だけでなく、昨年卒業された院生の方、学部生とも関わる機会が多くあり、年齢や専門領域に縛られないつながりを得られたのも政策学研究科ならではの感覚です。この多様な学びを今年度は修士論文執筆に活かしていきたいと思っています。

### 政策学研究科 修士2回生 山内 裕貴 さん

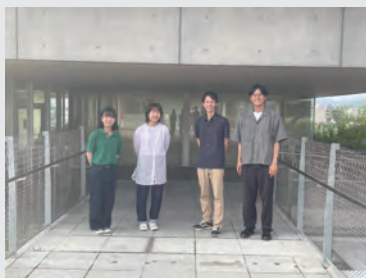


昨年度はパンデミックから少しずつ回復し、ニューノーマルな時代の転換期にあったと思います。そんな期間を過ごした“留学”は私にとってのニューノーマルで、不安とわくわくの日々でした。

「ドイツ到着後、入国できない、それでもいいのか」と言われ、不安の中で出国したのがはじまりでした。実際は問題なく入国できたのですが、こんな感じでトラブルが起きたり、ドイツの文化を楽しんだり、言語の壁に打ち当たる日々でした。その中で得たものは、人との出会いとalles in butterです。言語の高すぎる壁も「もっと話したい」という思いでよじ登ってきました。ドイツ語で少し古い言葉に「Alles in Butter」という言葉があります。直訳は全てはバターの中ですが、きつとうまくいくという意味です。困った時に現地の友人に「きつと大丈夫」と励まされ、楽観的すぎると思いつつ、少々心配性の私にはとても素敵な考え方だと思っています。

留学を経て自分がどれだけ成長したかは正直わかりませんが、得た経験や所感をもって物事に取り組んでいきたいです。

## 編集スタッフ紹介



グローバル通信62号は、前年度担当の吉田匠・吉川絢菜と今年度担当の谷澤莉音・吉田瑞希の4名で編集いたしました。2023年度も魅力あるグローバル通信をみなさまへお届けできるよう努めます。よろしくお願いいたします。

## 事務局インフォメーション

### ○協定先懇談会

日時：2023年7月27日(木) 12:40~14:10  
開催形態：オンライン

### ○地域公共人材総合研究プログラム 推薦入学試験要項のお渡しについて

7月下旬～8月上旬を目途に、協定先ご担当者様へ配送予定です。